

市民フォーラム「東広島市の景観と文化遺産を考えよう：西条酒蔵通りから」  
-日本の20世紀遺産20選認定（ICOMOS）を記念して-  
（2018（平成30）年度 広島大学マスタース企画事業報告）

広大マスタース会員 渡部和彦

表記市民フォーラムおよびシンポジウムが開催された。以下その概要を報告する。

開催日時：2019年1月23日（水）午後2時～5時（開場：1時30分）

開催場所：東広島市民文化センター「アザレアホール」

（後援：東広島市、東広島市教育委員会 共催：広大マスタース友の会）

### 第1部：基調講演

研修旅行報告「八女市、有田町から学ぶ」（HM代表幹事 渡部和彦）

2018年11月8日（木）・9日（金）の八女市および有田町の研修旅行（参加者18名）で得られた、景観条例や街並み保存に関する現地のこれまでの取り組みと現状等についてスライドを用いて紹介した。城下町の八女市は豪雨による大災害、有田は文政の大火災（1823）で共に甚大な被害を受けた。その後、整備された歴史的な街並みを如何に保存すべきかについて、大規模な復興事業への取り組みがなされた。共に、重伝建（重要伝統的建造物保尊地区）の認定を得た後、長年月にわたり行政・住民および専門家の協力により歴史的建造物の復元に取り組み、町並みの景観保存事業が遂行されたことが紹介された。また、西条酒造施設群が窯業の有田と共に、ICOMOSから、20世紀遺産20選に選定された意義について、同様に認定された事例を挙げて紹介した（新幹線、本四連絡橋、上野恩賜公園、青函トンネル、原爆ドームと平和記念資料館、等）。会場には、有田町から町長、議会副議長、県議会議員、商工観光課長が参加され、挨拶の中で、代表幹事から紹介された。

### 第2部：シンポジウム

川崎信文氏の司会で、4名のシンポジストがそれぞれの立場から意見を述べた。以下、要点を紹介する。HM会員・広大名誉教授の塚本俊明氏は、「景観・文化資源と東広島市の都市づくり」と題して、学園都市東広島市の歩みを振り返ると共に、専門の都市計画の視点から、西条酒祭り周辺の立地条件と京都の伏見との違いを詳細な図面を用いて比較・解説。貴重な観光資源としての利点を紹介。西条酒造協会理事長の前垣寿男氏は、「20世紀遺産・西条酒蔵通りの未来」と題して、現在観光客で賑わう、西条酒祭り発足当初の経緯の紹介と共に、現在の課題として、観光客の受入れ態勢の整備と、重伝建認定に向けた、官・民挙げての協力が必要であると強調。呉市都市部・都市計画課長の檜垣昌宏氏は、「呉市における景観への取り組み」と題して、重伝建に認

定されている呉市豊町御手洗地区の現状を始め、呉市全体の景観保護施策の取り組みについて詳しく紹介した。その中で、景観への住民意識を高めるには、一方的ではなく街づくりへの市民の理解を得るための十分な話し合いの重要性を強調。東広島市観光協会会長の蔵田憲氏は、「観光資源としての東広島の景観・文化遺産」と題して、東広島市観光協会の主要な目的の一つに酒文化の振興を図り、地域経済および地域文化の発展に寄与することを挙げた。年間を通した賑わいづくりに、酒蔵通り活性化事業～酒蔵通り元気プロジェクト～、明かりの散歩道、春の西条「醸華町まつり」、音楽祭、酒蔵 YOGA、ART in 酒蔵、等の積極的取り組みを紹介。くぐり門・駅前案内所の来訪者の増加傾向を数値で示した。

総合討論では、シンポジスト同士による、活発な意見交換と共に、会場からの意見も交わり、本気度と熱気が感じられるシンポジウムとなった。

司 会：川崎信文（HM 会員・広大名誉教授）

開会挨拶：渡部和彦（HM 会員・広大名誉教授）

閉会挨拶：平田敏文（HM 会員・広大名誉教授）

フォーラム進行：岡本哲子（広大マスターズ友の会）

市民フォーラム開催に際し、東広島市、東広島市教育委員会、呉市、(株)東広島ケーブルメディア、(株)中国新聞社、(株)プレスネット、東広島市観光協会等、関係団体様はじめ、広大マスターズ友の会、東広島健康づくりウオーキング友の会、関係住民自治協議会など、多くのご関係の皆様からのご協力をいただきました。末筆ながら、主催者を代表して、心から感謝申し上げます。



総合討論

\* 中国新聞 2019 年 1 月 24 日（木）に以下の記事が掲載された。

## 酒都の景観守ろう

東広島でフォーラム

公開フォーラム「東広島市の景観と文化遺産を考えよう 西条酒蔵通から」が23日、



酒蔵通りの将来について意見を交わしたフォーラム

同市のアザレアホールであった。広島大の名誉教授たち4人が酒蔵通りの将来を巡って討論。市民約100人が耳を傾けた。4人は同大の塚本俊明名誉教授（都市計画）、西条酒造協会の前垣寿男理事長、市観光協会の蔵田憲会長、呉市都市計画課の樽垣昌宏課長。周辺でマンションが増える中、酒蔵が立ち並ぶ景観をどう守り、観光に生かすかが焦点となった。塚本名誉教授は「市にとつての観光の重要度も見定めながら議論したい」と提案。前垣理事長は、通年で大勢の観光客を受け入れるためのトイレ整備など、蔵田会長は観光振興条例の必要性をそれぞれ強調した。樽垣課長は呉市豊町御手洗の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）などでの景観保護施策に触れ、「住民の景観への意識を高めるためには、街づくりの議論から始めることが大切」と助言した。市内に住む広島大の元教職員でつくる「広島大マスターズ」が初めて開いた。

（土井和樹）